



# ユネスコ無形文化遺産

# 日本が世界に誇る

# 山・鉾・屋台行事



無形文化遺産の保護に関する条約  
 日本政府からの提案により、無形文化遺産保護のための政府間委員会は、日本の山・鉾・屋台行事を人類の無形文化遺産の代表的な一覧に登録しました。  
 この一覧への登録は、無形文化遺産の重要性への意識と視認性の向上の確保に貢献するものであり、文化の多様性を尊重した対話を促すものであります。  
 登録日 2016年11月30日  
 ユネスコ事務局長 イリナ・ボコヴァ

新庄まつりは藩政時代の宝暦六年（二七五六）、藩主戸沢正誼が、前年の大凶作でうちひしがれている領民に活気と希望を持たせ、豊作を祈願するために、戸沢氏の氏神である城内天満宮の「新祭」を領民あげて行ったのが起源とされています。

祭りは、古式ゆかしい神輿渡御行列、歌舞伎・歴史物語の名場面を見事に表現した豪華絢爛な二十台の山車行列など藩政時代をしのばせる歴史絵巻が繰り広げられます。また、山車行列を盛り上げるお囃子も見どころの一つです。

二十四日の宵まつりは、山車に照明が入り、光と影が織り成す幻想的な雰囲気包まれ、観客を魅了します。

二十五日の本まつりは、総勢二百名の神輿渡御行列が新庄城址（最上公園）を出発します。足軽の息のあった足さばきや傘回しの妙技など数多くの見どころがあります。神輿渡御行列に続く山車は、夏の日差しを浴びて鮮やかな色彩を放ち、その豪華さと迫力は圧巻です。

最終日の後まつりは、新庄北部に古くから伝わる五穀豊穡を祈願する全国的にも珍しいカモシカを模した県無形民俗文化財の萩野鹿子踊と仁田山鹿子踊を見ることが出来ます。また、飾り山車として街中に二十台全ての山車が集結し、新庄の夏は、祭りの幻想と興奮でフィナーレを迎えます。